

## 「地質の日」のイベントが全国の博物館等で開催

### — 5月10日地質の日第6回事業の紹介 —

平成25年5月2日

地質の日事業推進委員会\*

一般社団法人日本地質学会

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

一般社団法人日本地質学会（以下、日本地質学会）は、5月10日の「地質の日」を記念して、特別イベントを開催いたします。

#### ◎街中ジオ散歩 in Tokyo「石神井川がつくる地形の移り変わりと地質」

日時：2013年5月12日（日）10時から17時 小雨決行（予定）

共催：公益財団法人深田地質研究所

後援：一般社団法人東京都地質調査業協会（予定）

協力：一般社団法人日本地質学会関東支部

場所：東京都北区田端・上中里・王子界限（JR王子駅西側の台地上に発達する石神井川，逆川付近）

案内者：池田 宏氏：（公財）深田地質研究所，中山俊雄氏：（独）防災科学技術研究所

趣旨：身近な地質とその地質に由来した地形，それらを利用してきた先人から現在の私たちまでの営みを，春の清々しい空気の中でのんびり歩きながら，ベテラン研究者からの興味深い説明を聞き，楽しく学ぼうという企画。今回は，石神井川と逆川，谷田川の河川争奪に見る地形の変化と地質，人々の暮らしをテーマに歩きます。（<http://www.geosociety.jp/name/content0098.html>）

#### ◎第4回惑星地球フォトコンテスト入選作品展示

一般社団法人日本地質学会・埼玉県立自然の博物館 共催

日程：2013年5月25日（土）～6月9日（日）

会場：埼玉県立自然の博物館<<http://www.shizen.spec.ed.jp>>

入選作品の詳細は，<http://www.geosociety.jp/faq/content0009.html>

- ・ 5月10日の地質の日を記念して，本年5月10日（金）前後に全国の自然史系博物館を中心に多数の記念イベントが開かれます。
- ・ 2011年3月11日の東日本大震災をきっかけに，自分の足下の大地がどうなっているのか興味を持つ方が増えています。また，動く大地の上でどのような社会を今後作り上げていけば良いのかを考えようという人も増えています。地質の日のイベントは，一般市民の方々が“地球の性“質”（地質）を知るための絶好の機会になると考えます。
- ・ 4月30日現在で，全国18都道府県の全国36機関・団体で80イベントが行われる予定です。今後も増える予定です。

地質の日事業推進委員会の主要メンバーである日本地質学会は，街中ジオ散歩 in Tokyo「石神井川がつくる地形の移り変わりと地質」徒歩見学会を行うほか，各支部において，講演会，イベントなどを予定しています。（<http://www.geosociety.jp/name/content0099.html>）

## ■ 概 要 ■

日本地質学会が主要メンバーである「地質の日」事業推進委員会\*1では、全国の博物館等を拠点に行なわれる5月10日（金）「地質の日」の第6回記念事業を推進しています。

「地質の日」は地球生命史、地球環境、自然災害を理解するうえで重要な地質について、より身近に知っていただくために、2007年に地質関連学会・機関が発起人\*2となり、5月10日を「地質の日」と決めました。昨年は、全国58の機関・団体で114のイベントが開催され、参加者数合計（56機関から回答）は257,089人に達しました。その様子は、マスコミで数多く取り上げられ、一般の人々が社会の基盤である「地質」に対する理解を深める好機になったと考えております。

「地質の日」事業推進委員会では、本年も5月10日（金）を中心に行われる「地質の日」事業をさらにいっそう推進いたします。今年の第6回の記念事業は、すでに4月30日現在で、全国36機関・団体で80イベントが行われる予定です。

最新のイベント情報は、地質の日ウェブサイト\*3に常時更新して掲載しておりますので、ぜひご参照ください。

資料1 地質の日2013 ちらし (Webからダウンロードできます。再配布自由です。)

資料2 今後予定されている記念イベントの一覧(4/30現在)

資料3 第4回惑星地球フォトコンテスト入選作品展示 チラシ

\*1 事業推進委員会：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、日本堆積学会、日本第四紀学会、(独)産業総合技術研究所地質調査総合センター、(独)北海道立総合研究機構地質研究所、全国科学博物館協議会、(独)国立科学博物館、日本科学未来館、神奈川県立生命の星・地球博物館、(社)全国地質調査業協会連合会、(社)東京地学協会、(NPO)地質情報整備・活用機構、日本鉱物科学会、(NPO)日本ジオパークネットワーク(順不同)(2013年4月現在)

\*2 発起人：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、(独)産業技術総合研究所地質調査総合センター、(独)北海道立総合研究機構地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、(社)全国地質調査業協会連合会、(NPO)地質情報整備・活用機構(順不同)

\*3 地質の日WEBサイト <http://www.gsj.jp/geologyday/2013/>

## ■ 地質とは ■

私たちの住んでいる大地は、地層、岩石、土壌などできています。これらの物質やその性質のことを「地質」と呼びます。人間に例えれば、地球の表面を覆っている服(植生)をめくった体そのものと考えて良いと思います。

地質は、エネルギーやさまざまな材料の素となる鉱産資源や温泉のような豊かな恵みをもたらします。また、地質を知ることによって、構造物の基礎や地下施設の安全な設計をすることができます。

さらに、地質を理解することは、地震、火山噴火、斜面崩壊などの発生メカニズムを理解し、災害を予測したり、被害の低減を図る上でも、大変重要です。

## ■ 地質の日制定の社会的背景 ■

現在、地質への一般の関心は残念ながら高いとは言えません。専門とする教員がいないために地質を十分に学ぶことのできない高校が多くあります。小学校・中学校でも、教員が地質をあまり学んでいないために教えることさえままならなくなっていると言われていています。しかし、私たち人間が地球上で、安全安心で豊かな生活をしていくためには、足下の身近な地質について知っておくことが必要です。地質の日事業推進委員会を初めとして、地質に携わる者は、一般の人々に身近な地質について興味を持って頂き、地質への理解が深まることを期待しています。

## ■ 地質の日制定の経緯 ■

「地質」の記念日を作ろうという動きは2000年頃から当時の通産省地質調査所でありました（地質ニュース547号など）。その後、しばらく動きが途絶えていましたが、2006年8月に茨城大学理学部の天野一男教授が「地質の日」制定の提案を学会の広報誌（地質学会 News, 2006, 8月号）に寄稿したことを契機に、再び「地質の日」制定の気運が高まり、昨年2007年3月13日に地質に関係した学会・機関\*2が発起人となって「地質の日」を決めました。

## ■ 地質の日の由来 ■

“お雇い外国人”地質学者ライマン(米国)らによって、明治9年(1876)5月10日に日本初の広域的な地質図「日本蝦夷地質要略之図」が刊行されたことにちなみます。明治の初期にわずか数年で、日本全国の地質図を作成したことは驚くべき成果です。なお、明治11年(1878)5月10日には、初めて地質の調査が国の事業の中に位置づけられたということもあり、地質には縁の深い日です。

## ■ 地質の日事業の内容 ■

「地質の日」前後には、各地域の博物館等を中心として、地質図、化石、鉱物、地震、火山等をテーマにした展示やイベントを始めとして、記念出版物の刊行、地質学の新たな展開として期待されているジオパークをテーマにした地質の見学会などの記念事業が開催されます。これを機会に、地質について地域の人々の理解が深まることが期待されます。

## ■ 「地質の日」事業全般の問い合わせ先 ■

地質の日事業推進委員会事務局（産総研地質調査総合センター） 担当 渡辺、澤井  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1 中央第7  
TEL : 029-861-3836 FAX : 029-861-3672  
E-mail : geologyday-jimu@m.aist.go.jp

---

【本件プレス発表】  
日本地質学会事務局  
〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6階  
TEL : 03-5823-1150 (代表) FAX : 03-5823-1156  
E-mail : main@geosociety.jp